

魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 齋藤 理一郎 所属: 群馬県立太田フレックス高等学校

記録日: 2023年2月24日

キーワード: 自分発信、進路活動、人間関係作り

【対象生徒の情報】

- 学年: 卒業年次(高校3年目・18歳2ヵ月=2023年2月現在)
- 障害名: 知的障がいに伴う自閉症
- 障がいと困難の内容
 - (1) コミュニケーション(自己表現)が乏しい。
 - ・ 困っていることについて、周囲に伝える表現手段が少ない。
 - ・ 嫌なことを断れず、対人トラブルに巻き込まれる。
 - (2) コミュニケーション(やり取り)を続けるのが難しい。
 - ・ 自分から話しかけられず、声をかけてもらうのを待っている。
 - ・ 声をかけられると、一語・二語の返答で済ませてしまい、会話が続かない。
 - (3-a) 進路活動に際して、自己決定に欠ける。
 - ・ 自分の適性について、適切に理解できていない。
 - ・ 「複数の選択肢から選ぶ」という行動ができず、固まってしまう。
 - ・ こだわりが強く、「ダメなら他がある」という考え方にならない。
 - (3-b) 卒業後に起こる多様な人との関係作りの経験が少ない。
 - ・ 「友だちを作りたい」と考えているが、どう行動したらよいか戸惑っている。
 - ・ 「相手は自分と違う考え方をしている」という考えに至らない。
 - ・ 場の雰囲気居心地悪くなると、その場からダッシュで逃げ出してしまう。

【活動目的】

- 当初のねらい→活動中の様子⇒ねらいの追加・修正:
 - (1) 昨年度、活用が定着したアナログの「ショートダイアリー」と、デジタルの「えにつき」の取り組みを続けて、発信・自己表現の機会と手段として使いこなす。
 - 「ショートダイアリー」と「えにつき」には積極的に取り組んできた。
 - ⇒ 発信の数や表現としての文章量は十分に増えているので、内容的なもの(発信・表現の質)の充実をはかる。
 - (2) 発信や自己表現の経験を積み重ねる中で、「相手(対象)」を意識した、適切な表現を身につけていく。
 - 発信や表現に一方通行的なものが多く見られた。
 - ⇒ 「相手(対象)」を意識した表現のあり方を支援していく。
 - (3) 卒業後、社会で自立していくにあたり、「自分の思い通りにいかないこと」への対処法を増やしていく。
 - a) → 「自分の思い通りにいかないこと」に対して、痲痺を起こす場面が、家庭や学校で複数回見られた。
 - ⇒ 自分の感情を整理できるようにする。怒ったり、イライラする以外の表現手段を身につける。
 - b) → 仲良くなりたい相手との距離の取り方や接し方に特徴があり、対人トラブルがあった。
 - ⇒ 「友だち」に対して、自分ルールでなく、相手の立場を想像して関わられるようにする。
- 実施期間: 2022年5月10日~2023年2月22日の計25回の個別支援タイム
- 実施者: 齋藤理一郎 (特別支援教育士)
- 実施者と対象児の関係: 週に1回の個別の「支援タイム」の担当者
(昨年度は同じ年次だったり講座担当だったが、今年度は年次や講座での関わりはない)

【活動内容と対象児の変化】

○ 対象児の事前の状況:昨年度の取り組みより、観察された行動(◎)と、課題(▲)

- ◎ ルーティンが入ると、その活動(例:「ショートダイアリー」「えにつき」「zoom ミーティング」)に継続して取り組む。
- ◎ ルーティンが定着した安心感があると、新しいことでもチャレンジする。
- ◎ 一年間の活動を通して、以前に比べて「周囲の存在への意識」を向けている。
- ◎ 周囲の大人(教員)に対しては、困っていることを伝えたり、頼みごとをできるようになってきている。
- ◎ 家と学校の往復だけでなく、一人での行動範囲を広げている。
- ▲ 活動に慣れてくると、手を抜いたり、楽をしたがる場所がある。
- ▲ 生徒同士の関係作りでは「嫌だという思いをうまく表現できない」「相手に伝わるように頼めない」トラブルがある。
- ▲ 自分の思い通りにならない時に、イライラして癩癩を起こしたり、その場からダッシュで逃げ出したりする。

○ 活動の具体的内容:

- ・ 週に一度、対象生徒の授業後の時間に個別の「支援タイム」を設定した。
- ・ 一週間の「ショートダイアリー」を介しながら、学校生活の「楽しいこと」「嫌なこと」「困っていること」の会話をした。
- ・ 進路希望(デザイン系の専門学校)を踏まえ、アプリを使ってのビジョントレーニングを取り入れた。
- ・ 高校卒業後の人間関係作りのために、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた。
- ・ 高校卒業後の自主的な取り組みに向けて、活動の内容や活動時間を対象生徒の意向に合わせるようにした。
- ・ 実際に支援タイムは対象生徒が飽きた様子が見えたら切り上げるようにした(だいたい 30 分以内)。

○ 活動を通して、対象生徒の様子

<年度当初～夏休み前>

1. アナログの「ショートダイアリー」と、デジタルの「えにつき」には、一年を通して継続して取り組んだ。
2. 高校3年目になり、学習面では「心配なことはない」と自信を見せている。
3. 進路については「デザインの専門学校」を希望していて、進路活動は「ちょっと難しい」と感じている。
4. オープンキャンパスにくり返し参加している様子を、「ショートダイアリー」や「えにつき」で報告する。
5. 新しいゼミ(クラス)になったが、仲が良い人はいない。
6. 「仲良くなりたい人」として、複数の女子生徒を挙げている。
7. 授業では「歴史(日本史)」に興味があり、「新しいことを知るのが楽しい」と思っている。
8. 「華道」の授業で手先を使う細かい作業は、「苦手で嫌だ」と感じている。
9. 「体育」は、基礎的な運動は「苦手で嫌」だが、試合になると「負けても、次はがんばろう」と楽しんでいる。
10. 難しいことを考えようとすると、「分からない」とはぐらかす。
11. ビジョントレーニングのアプリに取り組むが、うまくできず、「疲れた」と言って興味を示さない。
12. ソーシャルスキルトレーニングを取り入れようとすると、想像力を働かせるのは落ち着かないようで、取り組まない。

<夏休み中>

13. 「ショートダイアリー」と「えにつき」には継続して取り組んだ。
14. 「えにつき」の題材は、放課後等デイサービスの活動や、テレビの大河ドラマの話題が増えた。
15. 長期休業中は zoom ミーティングをする約束をしたが、3回の約束を全て、「忘れていた」
16. スマホを使って、複数の SNS を本名で始めた。自己紹介には「友だちになってください」を添えた。
17. ネット上の「なりすまし」のアカウントにひっかかり、会いに行こうとした。
18. 母親にスマートフォンでのネットの使用を禁じられた。

<夏休み明け～冬休み前>

19. zoom ミーティングをすっぽかした理由は、「忙しかったから(進路の課題が)」
20. iPad のビジョントレーニングアプリは、「難しいので(やりたくない)」

21. 学校での出来事として、「女の子の友だちができた」 ※実際は、近くで見つめているだけで、会話はなし
22. SNS のメッセージで「台湾からの女子留学生」に言われるままにプリペイドカードを買い、会いに行こうとした。
23. 「困っている女子留学生を助けたかった」と、プリペイドカードを買うお金は、父親の財布から抜いた。
24. 母親にスマホを取り上げられ、以降は iPad(貸与品)での「えにっき」作成に活動を制限された。
25. まずは進路活動に専念して、進学先が決まってから、落ち着いて「人間関係」について学ぶ。
26. 進路活動と並行して、ソーシャルスキルトレーニングに取り組みに、少し意欲を見せた。
27. 友だちになりたいタイプは、「趣味(アニメ、スポーツ)が合う人」「きれいな女の子の人」
28. 逆に、「声大きい人、たくさんしゃべる人は苦手」
29. デザイン専門学校の指定校推薦に落ちた→一般入試で再チャレンジしたい。 ※不合格の意味が分かっていない
30. 一般入試向けに面接練習を始める。
31. 志願先の専門学校以外の進路や、自分自身の適性については、「思いつかない」

<冬休み明け>

32. 専門学校の一般受験も不合格だった→進学をあきらめる。
33. 障がい者就労支援サービス事業所を 2カ所(AとB)を見て、どちらかを選ぶことにする。
34. まず、1月にA事業所を見学に行く→即決せず、B事業所も見学してから決めることにする。
35. 卒業生の家庭学習期間中(2月)にB事業所を見学して、B事業所に決めた。
36. B事業所に決めた理由は、交通手段(バスに乗れること)と、パソコンが学べること、グループ活動の形態。
37. 卒業すると、iPadのアプリ「えにっき」は使えないが、「ショートダイアリー」は続けられるように、ノートを買った。
38. 将来は、パソコンを使ったり、イラストを描いたりする仕事につきたい。

【報告者の気づきとエビデンス】

○ 主観的気づき:

- ・「コミュニケーション(自己表現・やり取り)」「進路活動」「人間関係作り」と3つの課題に同時並行で取り組んだのが、対象生徒に負荷が高かった。
- ・毎週の「支援タイム」は、昨年度に比べて短時間で集中力が途切れて(「疲れた」と言って、荷物をまとめてしまう)、短いときは15分、長くても30分で切り上げられてしまった。
- ・進路活動という先行きの不安が大きかった様子で、夏休み前後に対人関係のトラブル(ネットの「なりすまし」被害を受ける、女子生徒の集団についていく、メッセージで知り合った人に会いに行こうとする)が目立った。
- ・先行き不安が大きいまま、「支援タイム」で提案する活動(アナログなもの、アプリを活用したもの)に集中できず、継続して取り組むことが少なかった。
- ・保護者や年次担当、進路指導部との連携で、「まず、進路を決めて落ち着いてから、いろいろ成長させましょう」ということになったが、その進路決定が先に延びる中で、先に高校卒業が決まってしまった。
- ・卒業が確定し、家庭学習期間中に、「障がい者就労支援サービス事業所」を2カ所見学に行き、対象生徒が自身の適性や興味の方向、そこに通うイメージを想像して、卒業後の通所先を決めることができた。
- ・高校在学中は課題解消には至らなかったが、対象生徒自身が自分の課題に気づき、卒業後も日記を書き続けるルーティンに取り組むことや、就労支援移行後の進路選択などを現実的に考えられるようになった。

○ エビデンス:

- ・今年度は対象生徒と支援実施者の接点が少なく、また、卒業年次に当たる対象生徒の「進路活動」の負担の大きさや進路決定までの期間が先延ばしになったこともあり、十分な ICT 機器の活用には至らなかった。その中でも継続的に取り組んだ「えにっき」と「ショートダイアリー」の記述について、対象生徒の特徴や変化を追いながら、考察していきたい。

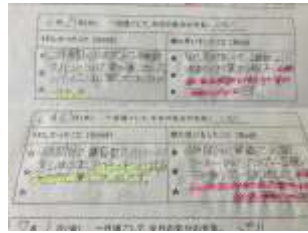
① 昨年度から始めた「ショートダイアリー」には、長期休業期間も含めて毎日の出来事を継続して記録している。

・最初は「うれしかったこと」だけの記述だったが「嫌な思いをしたこと」も書くように勧めたら、振り分けるようになった。



・うれしいことの傾向として、「何かを知ること」「できるようになること」の記述が多い。

逆に、手先を使った作業や、「変換・分類」のような考えることは難しく「嫌だ」と感じている。



・ショートダイアリーの取り組みの3ヵ月程度過ぎた頃から、ただ「何かを知るのうれしい」だったのが、その内容によって「嫌な思いをしたこと」に振り分けたり、逆にスポーツの勝敗にかかわらず「うれしかった」と感じるようになってきた。



※ 6月7日の「支援タイム」でのやり取りより

生徒「(人が死んだことでも)わかるのは、うれしい」

教員「人が死ぬのは、悲しいことじゃないの？」

生徒「もう死んじゃったのに、悲しむのは、わからない」

※ 6月21日の「支援タイム」でのやり取りより

生徒「(大河ドラマを見て)源範頼が流罪になるのが怖かった」

教員「なんで?(今までなら)流罪になるのを知るのは、嬉しいんじゃないの？」

生徒「流罪になったら殺されると思ったから」

※ 6月28日の「支援タイム」でのやり取りより

生徒「(映画の登場人物が)毒薬を飲まされるのが怖かった」

教員「毒薬を飲まされると、どうなるの？」

生徒「死んじゃう」

◎ 「ショートダイアリー」の取り組みを続けて、予測できる内容について「うれしい」「嫌だ」を表現できるようになった。

卒業後に向けてノートを購入して、これからも「うれしかったこと」「嫌な思いをしたこと」の記録を続けていく。



② 「えにっき」アプリを使って、自分の活動や好きなことについて、写真と文章で作成したものをオンラインで送っている。

・ 各月の「えにっき」の作成数と内容のジャンルの表は、次のとおり

ジャンル	日本史授業	デイ活動	大河ドラマ	進路活動	家でのこと	その他	合計
6月	7	2	3	2	1	1	16
7月	5	5	3	1	1	0	15
8月	2	12	4	2	0	0	20
9月	6	2	4	1	3	1	17
10月	7	6	5	0	2	0	20
11月	5	3	4	0	2	0	15
12月	4	6	4	0	1	1	16
1月	6	5	4	0	4	0	19
合計	42	41	31	6	14	2	136

・ 毎月 15~20 の「えにっき」を作成し、2 日に1つ以上のハイペースで送っている。

・ 一番興味を持っている「日本史」の授業についての「えにっき」が多く、毎回の授業の記録として活用している。



・ 長期休暇期間は、「放課後等デイサービス」での活動について、紹介している。



・ 大河ドラマ(「鎌倉殿の13人」「どうする家康」)は毎週欠かさず見ている、内容を紹介している。



・ 進路活動については、オープンキャンパスに行った様子を伝えていたが、受験(不合格)後は、途絶えた。



・ 家での様子については「母と出かけた話」や趣味の「映画鑑賞」の話題をときどき伝えてくれる。



◎ 「えにっき」には、うれしかったことや楽しかったことを書いて発信するものという意識が定着している(「嫌な思いをしたこと」での作成がない)。高校卒業後に再開するかもしれない SNS での発信としては、良好な傾向である。

○ その他のエピソード:

③ 進路活動について:

- ・ 2年次から「デザイン系の専門学校」という明確な希望を持ち、オープンキャンパスには合計7回参加した。
- ・ 校内での成績評価も良好で、指定校推薦(書類選考のみ)で出願したが、不合格になってしまった。
- ・ 「どうしてもその学校に行きたい」という希望があり、一般受験(面接あり)を受験したが、再び不合格となった。
- ・ 自分の適性や、自分の能力の現状を見つめ直し、「障がい者就労支援サービス」への進路を考えるようになった。
- ・ 自宅から通える範囲の2事業所を見学、比較した末に、通所先を決めた(卒業生家庭学習期間)。
- ・ 「通所の時にバスに乗れる」「パソコン技術が身につく」「グループで活動できる」が通所先の決定要素だった。
- ・ パソコン操作を身につけて、就労に生かしたいという希望を持つようになった。

④ 対人関係づくりについて:

- ・ 進路活動が思うようにいかないストレスやプレッシャーから、「頼れる友だち」を求める行動が観察された。
- ・ 「元気な男の子の集団」につきまとう行動(昨年度末~今年度初め)。→ 「自分とは違うタイプの男子」への憧れがある様子
- ・ 「派手な女の子の集団」に近づき、じっと見つめる行動(夏休み前~継続中)。→ 「身の回り(=放課後等デイサービス)にはいないタイプの女子」に興味がある様子
- ・ 実生活(学校内)での友だちづくりが思うように進まず、SNSに出会いを求めてアカウントを作った。
- ・ 夏休み明け(9月)、SNS上のなりすましに騙されて、金銭被害を受けそうになった。
- ・ 校内の特別支援教育コーディネーターと相談して、『守ってほしいこと』を作成して渡した(9月末)。

『守ってほしいこと』

1. 会ったことがない人と、メールやメッセージのやり取りだけで、会う約束をしたり、実際に会いに出かけたりしてはいけません!!
2. お友だちを作るときに、お金を渡したり、もらったりしてはいけません!!
3. あなたが一人の人として、「自分の考え方」があるように、他の人たちにも「自分の考え方」があります。**自分の思うようにならないからと、怒ったり、イライラするのは間違いです!!**

言っていることが分からなかったら、先生や、お家の人と相談して、きちんと理解できるようにしましょう。学校を卒業してからも、人生を送っていく中で大切なことです。

- ・ その後、目立つような大きな対人関係トラブルは観察されていない(女子の集団を見つめる行動は続いている)。

⑤ その他、卒業年次生としての学校生活について、成果(◎)と課題(▲):

- ◎ ICT機器の活用により、学習面については知識の定着と学力の向上が見られた。
- ◎ 毎日の出来事を日記に記録する習慣が定着し、感情をふり分けて整理するきっかけとなった。
- ◎ 高校を卒業して社会に出て行くに際して、自分と他人(周囲)の考え方や、ある姿の違いに意識が向くようになった。
- ◎ 進路活動が思い通りに行かない過程で、自分に足りない部分を認識し、「就労支援サービス」に意識が向いた。
- ▲ 細かい手先の作業があったり、道具を使う「華道」の授業での困難はICT機器では解消できなかった。
- ▲ 進路決定の上で、苦手なことのトレーニングにICT機器を活用する提案には、意欲を示さなかった。
- ▲ 気になる周囲の人へのアプローチの方法について、十分な経験が積めていないので、戸惑いがある。